



NME News

Nutritional Management
Expert News

栄養経営士のための情報紙

2025
2月号

●発行／一般社団法人
日本栄養経営実践協会
(JANMP)
〒104-0032
東京都中央区八丁堀3-20-5
S-GATE八丁堀9階
●制作／株式会社日本医療企画

お問い合わせ先／一般社団法人 日本栄養経営実践協会 事務局 TEL.03-3553-2903 FAX.03-3553-2904 <http://nutrition-management.jp>

第40回日本栄養治療学会学術大会 JSPEN2025

日本最大の臨床栄養の大会で多数の 栄養経営士が登壇、グランプリ受賞も

2025年2月14、15日の2日間、JSPEN2025がパシフィコ横浜ノース／アネックスホールで開催された。「栄養治療の船出」をテーマに行われた大会では本協会の理事や会員が多数登壇、病院食コンテストでは土屋輝幸さんが二冠を達成するなど、各所で栄養経営士が活躍を見せた。簡単ではあるが、大舞台で発表した栄養経営士の勇姿を紹介する。

■1日目

開会式のあと、朝9時から一斉に各会場でプログラムが始まりました。第5会場では「第2回患者さんのための見た目にもおいしい病院食コンテスト」があり、クックサーブ部門で土屋輝幸さん(武蔵野徳洲会病院)が2年連続でグランプリを受賞、連覇を達成しました。

グランプリ講演で土屋さんは「おいしい食事の提供は管理栄養士の専門性を活かせるゆるぎない業務であると考え。食事は病院の顔にもなり、栄養は患者さんの笑顔につながる。こうしたコンテストが病院給食の活性化につながることを願っており、またそこに自分も貢献したいと思う」と語りました。

さらに土屋さんはク

ックチル部門でも準グランプリを獲得し、両部門で表彰台に上るという快挙を成し遂げました。



グランプリの賞状と目録、準グランプリの目録を持つ
土屋輝幸さん

宮澤靖代表理事(東京医科大学病院)が座長を務めた口演03「集中治療」では寺田師さん(上尾中央総合病院)が「重症患者のGLIM基準による栄養評価と予後との関連」のテーマで登壇。GLIM基準で判定するとICU・CCU入院患者の3割弱が低栄養であり、重度低栄養患者は予後不良が認められたと自院で行った調査結果を報告しました。



発表後の質疑応答で答える
寺田師さん

シンボジウム01「GLIM基準を日本医療企画の医療現場に定着させよう」では西岡心大理事(長崎ハビリテーション病院)が登壇し「栄養スクリーニングツールの妥当性と使用の現状」をテーマに発表しました。西岡理事はさまざまなスクリーニングツールを紹介し、自身が行った検証の結果を報告しながら、適切なツールの使用のためには各ツールの妥当性の検証が重要だと説きました。

口演04「栄養評価1」では佐々木麻友さん

(仙台市立病院)が「当

院におけるMUSTとGLIM基準の実践と導入後の課題」で発表。自院で電子カルテにMUSTとGLIMを導入して運用を開始し、低栄養患者を適切に評価するための運用について検討した結果と、今後につなげるための課題について報告しました。



自院での取り組みを発表する
佐々木麻友さん

口演05「栄養評価2」では「GLIM基準と従来法による栄養評価結果の比較」というテーマで森本聖子さん(姫路中央病院)が登壇しました。従来法として血清アルブミン値に

よる評価を使用、GLIM基準による栄養評価と比較し、GLIMの方が包括的な栄養評価が可能であると結論づけました。



会場からの質問を聞く
森本聖子さん

要望演題07「摂食・嚥下障害に関する栄養治療」では長瀬まりさん(旭川赤十字病院)が「嚥下調整食の共通理解にむけた国際嚥下食標準化構想(IDDSI)活用」を発表しました。日本では嚥下調整食学会分類2021が主流ですが、IDDSIはフォークとスプーンがあればテストができるため簡便で評価がしやすい等のメリットがあり、いずれは患者とその家族によ



IDDSI活用に見せる
長瀬まりさん

2025年「栄養経営士」資格認定試験はIBT方式で開催中です!

「栄養経営士」 資格認定試験

- 試験日:毎日受験可能
- 受験料:9,500円(消費税・システム利用料込み)
- 実施方法:IBT(Internet-Based Testing)方式
※インターネットを経由しスマートフォン、タブレット端末、パソコンを使用して受験
- 受験エントリー期間:通年
- 受験資格:管理栄養士(実務経験2年以上)かつ「栄養経営士」資格認定基礎講習修了者

「栄養経営士」資格認定基礎講習は
WEB・DVDによる受講も可能です!

DVD受講は3枚組、特典映像
「近森病院に学ぶ実践マネジメントのすべて」付き

くわしくは

🔍 栄養経営士

検索



一般社団法人 日本栄養経営実践協会
The Japan Association for Nutritional Management Practice

〒101-0042 東京都中央区八丁堀3-20-5 S-Gate八丁堀9F
TEL:03-3553-2903 FAX:03-3553-2904

る活用を目指したいと
展望を語りました。

ワークショップ07
「口腔・栄養・リハビ
リテーションの一体的
取り組みへのエビデン
ス構築」では宮島功さ
ん(近森病院)が登壇し
「リハビリテーション
・栄養・口腔連携体
制加算算定に向けた一
体的取り組みと実践」
について発表しまし
た。自院での多職種連
携による取り組み状況
を紹介し、算定件数に
についても報告しまし
た。

西岡心大理事が座長
を務めた口演06「地域
連携在宅栄養・在宅N
ST」では、学校および
学校医との連携により
栄養・心身状態の改善
を認めた心因性食欲不
振症(AN)の一例」と
題して森ひろみさん
(杏クリニック)が登壇
しました。本人・家族
とも摂食障害と認識し
ていなかった16歳・女
子に対し血液検査と身
体所見からANと診断
、栄養指導を行って
改善した例を紹介しま
した。これは学校と学
校医であるクリニック
との迅速な連携が功を
奏した事例であり、今

後は地域医療における
柔軟な栄養相談窓口の
体制構築が課題である
と語りました。



学校と医療機関との連携の重
要性を語る森ひろみさん

ポスター発表(1日目)

●01「栄養指導」

本荘真二さん(別府医療
センター)

「術後二次性のサルコペ
ニア患者に対して外来
栄養指導を行い改善を
認めた1症例」

●04「集中治療3」

山本純子さん(彩の国
東大宮メディカルセン
ター)

「集中治療室における
早期栄養介入経口摂
取への取り組み」

●16「がん(胃食堂)2」

梶原克美さん(近畿大
学病院)

「胃切後胃癌患者の
『最適化栄養食』喫食
前後の栄養摂取量につ
いての検討」

●32「小児・重度心身 障害」

小林弘治さん(日本心
身障害児協会島田療
育センター)

「発達障害児に対し、S
Tと管理栄養士が連携
したことにより体重増
加不良が改善した1症
例」

■2日目

8時半からプログラ
ムが開始され、朝早く
から大勢の参加者が会
場に詰めかけました。

同時刻からはじまっ
たパネルディスカッシ
ョン09「改めてERA
Sを考える…術前飲料
の摂取について議論し
てみよう」では宮澤靖
代表理事が「周術期管
理センターでのERAS
と炭水化物飲料付加
療法」のテーマで登壇
しました。自院でのE
RASプロトコルの導
入状況を説明、術前に
摂取する炭水化物飲料
について詳しく紹介
し、今後プロトコル
の改良と新しい栄養サ
ポートの導入等を図り
患者に貢献していくと
語りました。

また、入江翠さん(手
稲溪仁会病院)も「整形
外科手術における術前
アミノ酸・炭水化物負
荷飲料の効果」のテー
マで発表しました。術
前に炭水化物負荷飲料
を飲用してもらうこと
で、口渴感や空腹感、
不安感が減少し、患者
満足度に大きく貢献し
たと報告しました。

発表のあと、宮澤代
表理事と入江さんは他

の発表者とともに再度
登壇し、座長や会場か
らの質問に答えまし
た。そうそうたる登壇
者のなか、落着いて
答える入江さんが印象
的でした。



発表後にパネラーとして登壇
した宮澤靖代表理事



宮澤代表理事と同じパネラーと
して受け答える入江翠さん

口演41「摂食嚥下障
害2」では熊谷弘美さ
ん(南浜中央病院)が
「認知症高齢者の丸飲
み嚥下に対するソフト
食裏ごしの取り組み」
の喜びを感じる食支援
」を発表しました。

認知症が進み咀嚼や押
しつぶしが困難になっ
た場合、丸飲みを活か
した形態の料理を提供
することで栄養状態を
改善させることが可能
だとし、それが患者本

人の満足度やQOLの
向上にもつながったと
紹介しました。



患者に寄り添った結果を報告
する熊谷弘美さん

パネルディスカッシ ョン08「アンサーパッ ドセッション」上質な 栄養ケアに向けたNST と病棟配置管理栄養 士の役割と展望」には 福勢麻結子さん(東京 医科大学病院)が「病棟 配置とNST連携で目 指す上質な栄養ケア」 のテーマで登壇しまし た。アンサーパッドセ ッションとは、座長か ら提示された質問 (例…自施設の給食は 直営、部分委託、委託 のどれ?)について会 場参加者がスマートフ ォン等の機器を使用し て回答を送信し、その 集計をもとに座長が登 壇者に対して質問を投 げかけ、登壇者は各々 の状況や考え等を述べ る、というライブ感覚 のプログラムです。他 の登壇者とともに壇上 に並んだ福勢さんは自

身の経験を元にさまざ
まな質問に回答しまし
た。

予防における栄養管理
の役割と地域連携によ
る栄養介入の重要性」
のテーマで発表し、ク
リニックだけではなく
栄養ケア・ステーショ
ンを拠点に地域の管理
栄養士としても活動す
るなかで栄養介入して
効果をあげた実例を示
し、栄養管理の有効性
について伝えました。



その場でくり出される質問に
臨機応変に対応する
福勢麻結子さん

合同ワークショップ 02日本補綴歯科学会 「オーラルフレイルを 防ぐ補綴歯科・補綴歯 科治療と栄養治療の コラボレーション」に 秋山和宏副代表理事 (東葛クリニック病院) が登壇、「モジュール 化の視点による地域医 療における医科歯科連 携」のテーマで発表し ました。医科歯科の連 携において栄養改善と いう共通目的が連携の 標準化につながり、連 携の共通基盤ができれば 地域医療も進化してい くのではと語りました。

合同パネルディスカ
ッション09日本褥瘡学
会「褥瘡対策と栄養療
法の連携」では高崎美
幸さん(東葛クリニック
認定栄養ケア・ステ
ーション松戸)が「褥瘡

ばく質の投与について
医師・看護師と綿密に
連絡をとる、予後のた
めりハ職と協働で栄
養・リハビリを導入す
るなどした具体的な内
容を報告、今後の課題
と展開も語りました。

吉田貞夫副代表理事
(ちゅうごん病院)が座
長を務めた口演15「緩
和ケアと栄養」では今
回が初めての発表とな
る河津沙耶香さん(福
岡みらい病院)が「緩和
ケア病棟における栄養
科の関わりと取り組
み」のテーマで登壇し
ました。終末期の患者
に寄り添うために食器
や食事の分量にも配慮
し、誕生日等の特別食
にも力を入れた結果、
患者や家族から感謝の
言葉をもらい、栄養科
スタッフのやりがいにも
つながっていると紹
介しました。



発表後にパネリストとして回答
する高崎美幸さん

合同パネルディスカ
ッション07日本心不全
学会・日本医療企画心
臓リハビリテーション
学会「急性期から攻め
る心不全の栄養療法と
リハビリテーション」
では「多職種による急
性心不全の栄養療法」
のテーマで宮澤靖代表
理事が登壇しました。

自院で行っている急性
心不全患者への多職種
アプローチによる栄養
療法の取り組みについ
て、エネルギーとたん

初めての発表がJSPENとい
う大舞台だった河津沙耶香さん



初めての発表がJSPENとい
う大舞台だった河津沙耶香さん

栄養士病棟常駐がもたらすSCU早期栄養介入と看護師連携の利点」のテーマで花岡麻里子さん(西宮協立脳神経外科病院)が発表しました。自院での管理栄養士の病棟常駐がもたらす効果について、SCUの早期栄養介入管理加算の算定割合と看護師へのアンケートを元に報告、常駐により高い算定率と看護師との良好な協働関係が築けていると伝えました。

口演39「栄養指導」では「病院食コンテスト」でグランプリ・準グランプリを獲った土屋輝幸さんが再度登壇し「三位一体の多職種連携がこども食堂にもたらした公衆衛生的栄養教育」のテーマで発表しました。自院で展開している「むさどくこども食堂」の取り組みを紹介し(同取り組みについては『NMEニュース』2024年5月号に掲載)、医療機関がこども食堂に組み込むメリットと公衆衛生的な栄養教育になり得るという結論を報告しました。

ポスター発表(2日目)

●65「摂食嚥下障害7」後藤幸代さん(大分岡病院)

「嚥下調整食の実情と課題」

●67「糖尿病・肥満1」内潟千尋さん(金沢大学附属病院)

「肥満外科手術(腹腔鏡下スリーブ状胃切除術)6ヶ月後の食行動と体重変化」

◎事務局で確認・取材できた範囲で掲載しております。発表された栄養経営士全員が掲載できているわけではございません。ご了承ください。

JSPEN2025 栄養経営士 発表者コメント

今回発表した栄養経営士のなかから8名の方にコメントをいただくことができました。
これから発表を考えている方も悩んでいる方も、ぜひコメントを読んで参考にしてください! (順不同)

◎口演04 栄養評価1

当院におけるMUSTとGLIM基準の実践と導入後の課題



佐々木 麻友

仙台市立病院
栄養管理科

MUST/GLIMを運用する中で、過小評価の要因として教育不足があると再認識しました。当院では看護師が評価を行っていますが、多人数に正しい方法をどう伝え、実践に落とし込むかが課題です。
発表後、同じ電子カルテシステムを使用し、MUST/GLIMを導入予定の施設の方から具体的な運用について質問を受けました。導入に向けた課題を共有でき、大変有意義でした。
MUST/GLIM導入にあたっては「栄養管理の成果をもって施設経営の一翼を担う」など栄養経営士の視点が役立ちました。今後もマネジメントスキルを活かし、評価の精度向上と栄養介入の質の向上を目指します。

◎口演41 摂食嚥下障害2

認知症高齢者の丸飲み嚥下に対するソフト食裏ごしの取り組み～機能が低下しても食べる喜びを感じる食支援～



熊谷 弘美

南浜中央病院
栄養科

認知症患者は年々、増加傾向にあります。認知症の進行とともにソフト食へ移行する患者が多く、口腔内にため込み嚥下が困難になってくると、更にゼリーを裏ごししています。裏ごしの患者はその機能や栄養状態を何年も維持している症例が多いということが分かってきました。当院で10年以上前から取り組んでいるソフト食の裏ごしを、学会発表という場で形にしてみたいと思いました。6分の発表時間内にまとめるのは大変でしたが、ソフト食(原形と裏ごし)の写真やグラフを使用し、誰が見ても分かりやすくを心掛けました。今年は摂食嚥下専門療法士資格の更新の年にあたり、また新たな気持ちで摂食嚥下に取り組んでいきたいと思いました。

◎要望演題07 摂食・嚥下障害に対する栄養治療
嚥下調整食の共通理解にむけた
国際嚥下食標準化構想(IDDSI)活用を試み



長瀬 まり

旭川赤十字病院
医療技術部 栄養課

国際嚥下食標準化構想(IDDSI)の活用に向け、当院での臨床栄養学実習の一部に取り入れた試みについて報告しました。これまで摂食嚥下がテーマのNST研修会開催などをおこない、嚥下調整食の共通理解に向けた取り組みをおこなってきました。IDDSIでは、フォーク押しテストではかたさと粒の大きさを評価し、スプーン傾けテストで付着性を評価します。身近にあるもので食品の物性を評価ができるため、調理師や在宅で調理を担う方にも活用していたけると考えます。適切な評価にむけて広げていきたいと思っています。

◎合同パネルディスカッション09(日本褥瘡学会) 褥瘡対策と栄養療法の連携
褥瘡予防における栄養管理の役割と地域連携による
栄養介入の重要性



高崎 美幸

東葛クリニック認定
栄養ケア・ステーション
松戸(機能強化型)

今回は、褥瘡予防における栄養管理と多職種連携の重要性について発表しました。質疑応答で「DESIGNの各ステージに必要な栄養素」について質問を受けましたが、十分に答えられず、後日オンデマンド配信時にコメント追加を提案したものの叶わず、自身の準備不足を痛感しました。一方で、シンポジストの先生方と具体的な事例や成果を共有できたことは非常に有意義でした。多くの質問や意見をいただき、褥瘡管理における栄養士としての役割を再認識する機会となりました。今後は専門知識と実践力をさらに高めていきたいと感じました。

◎パネルディスカッション08

【アンサーパッドセッション】上質な栄養ケアに向けたNSTと病棟配置管理栄養士の役割と展望 病棟配置とNST連携で目指す上質な栄養ケア



福勢 麻結子

東京医科大学病院
栄養管理科

当院では管理栄養士が全病棟に配置されており、毎日多職種と協力をしながら栄養ケアに取り組んでいますが、NSTと病棟管理栄養士がどのように共存し、上質な栄養ケアに取り組んでいくかということを考えさせられました。かつてのNSTは全科型・週1回の活動が一般的でしたが、時代とともに求められているチーム医療は変化しているように思います。本セッションを通して、「病棟管理栄養士は栄養サポートの質の向上・均一化を目指し、それをサポートするNST」という形を追求していきたいと感じました。

◎パネルディスカッション09

改めてERASを考える:術前飲料の摂取について議論してみよう 整形外科手術における術前アミノ酸・炭水化物負荷飲料の効果



入江 翠

手稲溪仁会病院
栄養部

整形外科での術前飲料導入の効果について発表させていただきました。コメディカルからの発信で、多職種で連携しながら術前飲料を安全に導入できたことを、聴講して下さった方々に伝わっていましたら幸いです。大変緊張しましたが、ディスカッションでは、日本の医療でのこれからのERASについて、座長の先生や他のパネリストの先生のお話を拝聴し、大変勉強になりました。今後も食を通じて患者さんの身体の回復の支援を図ること、そして食事が患者さんの癒やしとなるよう、力を尽くしたいと感じました。

◎口演03 集中治療

重症患者のGLIM基準による栄養評価と予後との関連



寺田 師

上尾中央総合病院
栄養科

ICUへの管理栄養士常駐開始から継続しているGLIM基準による栄養評価を集積し、発表させていただきました。重症患者の栄養評価を行うにあたり、身長・体重・通常時体重・筋肉量の評価について発表での紹介やフロア、座長の宮澤先生からのご質問で皆さんと共有できました。個人的な考えではありますが、管理栄養士は栄養評価の専門家として、実臨床で通常時体重が分からない場合は、病歴や生活歴、身体状況から体重推移を推論することも必要と考えます。

◎第2回 患者さんのための見た目にもおいしい
病院食コンテスト
グランプリ講演



土屋 輝幸

武蔵野徳洲会病院
栄養管理室

患者の元へ食事が行き届くまで、数多な人手と時間が導入されています。そこには妥協がなく、患者のためにという想い一心で真摯に向き合う栄養の専門職があります。給食管理は立派な栄養管理の根源であり、専門性の高い業務です。昨今、求められている栄養管理と給食管理を両立しながら、患者サポートをしていけるように、多くの聴講者に伝われば幸甚に存じます。

◎口演39 栄養指導

三位一体の多職種連携がこども食堂にもたらした公衆衛生的栄養教育

医療機関が運営するこども食堂は、大変稀であります。またその中でも差別化を図るために、昨今のトレンドである三位一体に着目しました。病院は、専門職の集合体であるため、歯科医師・理学療法士等との連携が容易であり、それぞれの専門性を活かして、こども達へのアプローチができました。利用して下さるこども達が成長していく姿を糧としながら、今後も持続的な運営をしていきたいと考えております。

栄養経営士が知っておきたい!

イベント 情報掲示板

栄養経営士に求められるのは、さまざまな情報へのアンテナを張り、自身の知識・スキルを常にアップデートしておくこと。そのための貴重な機会である、全国で開催されるイベント情報を、支部の研究会を中心に掲載します。

※イベント参加申込の際は必ず最新情報を確認してください。

九州支部セミナー

給食部門改善のカギは“見える化”にあり。
数字で語れる管理栄養士になろう!
管理栄養士のための管理会計セミナー

「給食部門の赤字を改善したいが、何から取り組むべきなのかわからない」
「給食部門の改善に向け事務長や他部署に協力してもらいたいが、どうすれば伝わるのか悩んでいる」といった悩みを持つ病院や介護施設などの管理栄養士に向けた会計管理セミナーを行います。

- 日 程：2025年5月15日(木)・28日(水) ※両日とも14:00～15:00
- 講 師：川原 瞳氏(特別養護老人ホーム白熊園 施設長・管理栄養士／栄養経営士)
- 参加費：【会員】3,000円
- 会 場：日本医療企画九州支社セミナールーム
(福岡市博多区博多駅南1-3-6 第三博多階ビル5階)
- お問い合わせ：日本医療企画九州支社(担当:中野)
TEL:092-418-2828



オンラインセミナー情報

栄養ケア・マネジメント講座

栄養ケア・マネジメントの手法を基礎から学ぶとともに、厚生労働省の様式例に沿って書類作成方法(各種加算算定対応を含む)、介護報酬や運営指導対策についても解説します。現役で活躍中の講師によるリアルな困難事例とその対策法や事例検討により、スキルアップを目指せます。

- 日 程：2025年5月11日 10:00～15:00(休憩1時間あり)
- 講 師：武井圭佑氏(株式会社東洋システムサイエンス 管理栄養士、臨床栄養師／栄養経営士)
- 参加費：8,800円(税込)
- 形 式：オンライン(Zoom)
- お問い合わせ：東洋システムサイエンス
TEL:03-6912-7954
<https://www.dieti.biz/course/9923/>



学会情報

第68回日本糖尿病学会年次学術集会

糖尿病診療において臨床から研究へ発展させる、あるいは研究を臨床に活かすことを実現する契機となる大会になるよう「臨床と研究の架け橋～translational research～」をテーマに特別講演、教育講演、シンポジウム、若手研究者セッション等が開催されます。

- 日 程：2025年5月29日(木)～31日(土)
- 会 長：金藤秀明(川崎医科大学 糖尿病・代謝・内分泌内科学)
- 参加費：【一般】15,000円(4/23 12時まで、以降は18,000円)
- 会 場：ホテルグランヴィア岡山、岡山コンベンションセンターほか
- 問い合わせ先：日本コンベンションサービス株式会社 関西支社
Mail: info-68jds@convention.co.jp



協会事務局より

2025年4月期限の会員の皆様へ 【年度会費納入および資格更新のご案内】

本年4月に年度会費・会員資格の有効期限を迎える会員の皆さまに、当協会より、年度会費納入および資格更新のご案内をメールでお送りしております。期限は過ぎておりますが、事務局ではまだ対応しております。対象の方はご確認およびお手続きのほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。
※用紙での手続きを希望される方は、事務局までご連絡ください。

- 年度会費：有効期限が2024年4月20日～2025年4月19日の方
【個人正会員】10,000円
【栄養経営サポーター】8,000円
- 資格更新：会員資格が2022年4月20日～2025年4月19日の方
【個人正会員】15,000円(年度会費込み)
※申請書類・課題をご提出ください。
【栄養経営サポーター】13,000円(年度会費込み)
- お問い合わせ：一般社団法人日本栄養経営実践協会 事務局
TEL: 03-3553-2903

栄養経営士資格認定「基礎講習」が 新しくなりました! WEB講座開講!

「WEB受講(オンデマンド)」を新設、受講期間中はいつでも何度でも視聴可能になりました! ご都合に合わせて好きな講座をご受講ください。

WEB講座 (オンデマンド)

- ・開 催 日：通年
- ・時 間：約180分
- ・受講期間：3カ月(期間中はいつでも視聴可能)

会場講座

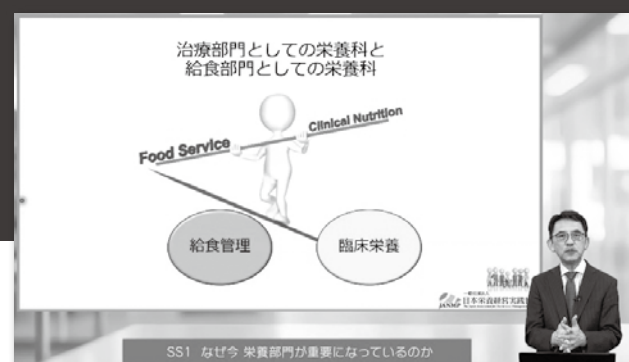
- ・開 催 日：未定(決定次第お知らせします)
- ・時 間：10:00～17:00

DVD講座 (在庫僅少)

- ・開 催 日：通年
- ・時 間：約190分(特典映像含む)
- ・受講期間：6カ月(レポート提出期限)

講習料は
各講座共通
8,500円(税込)

※現在会員の方は
5,100円(税込)で
再履修可能!



問い合わせ先

一般社団法人
日本栄養経営実践協会 事務局
TEL:03-3553-2903(平日10～12時/14～18時)
Mail:info@nutrition-management.jp

▼申込み

